

文科省

# 18歳選挙権で高校教材

## 年内配布、選挙参加の意義学ぶ

選挙権年齢の18歳への引き下げを受け、文部科学省は29日、高校生に選挙参加の意義などを教える副教材の内容を公表した。模擬選挙や実際の政治を体験する模擬議会などの授業方法のほか、違反行為の例などを盛り込んだ。約370万部作られ、年内にも高校や高等専門学校に配布する。

18歳による投票は来年6月の参院選からの見込みで、現在の高校生3年は全員、高2も一部が投票可能になる。選挙前に必要な知識を学ぶよう、同省は社会の授業だけでなくホームルームや総合学習でも活用を促す。

副教材は3部構成。「解説編」は現行の選挙制度のほか、候補者に関する情報の集め方などを掲載。若者の投票率低迷には4割を割

「実践編」は話し合いや討論を通じた民主政治の体験がテーマ。模擬選挙や請願などの方法を紹介し、地域の問題や政策比較についての視点を育てる。

Q&A方式の「参考編」は、高3でも18歳未満の政治活動は禁止されることや、「SNSやブログは可能、電子メールは禁止」「飲食や宿題を代わる見返りの投票依頼は買収」など違反事例を強調。教師用の指導書では、中立な立場で議論を促すことや、新聞などの教材は複数用いてバランスを取るなどの注意点を挙げた。

き、20代の投票数は60代の3分の1で、実際の人口差以上に声が届きにくい実態などを説明した。